

授業科目	NPO論【講義】		開講時期	前期
担当教員	上村 真仁		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は、原則的に遠隔授業で行います。現代社会における地域社会の課題を解決するために行政や民間企業に加えて市民活動組織としての「NPO（非営利組織）」の役割がますます重要となっています。また、人口減少社会や価値観の多様化、社会貢献志向の高まりの中で、充実した「豊かな生き方」の選択肢の一つとして「NPO」が位置付けられるようになってきました。本講義では、市民が参画する社会創造の担い手である「NPO」について理解を深め、その活動において求められる知識と志を身につけることを目的としています。具体的には、「NPO」の社会的な背景、活動理念や組織設立、運営の仕組み、資金調達の方法などを学ぶとともに、地域の課題解決に取り組むNPOの実践の事例について動画の視聴などを通して学ぶことで、「NPO」の今日的意義や「NPO」活動のやりがい、「NPO」で働くことの魅力、より良い社会創造における可能性などについて考察を行います。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会に関わる多様なセクターの特質を理解し、「NPO」の意義、社会的な役割を説明できる。</li> <li>2. NPO活動を実践するための手法について説明できる。</li> <li>3. 身近な地域課題を対象に、その解決に向けたNPO活動を構想することが出来る。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は民間シンクタンクにおいて官公庁の環境政策や地域振興施策の立案に関わり、また環境NGOや地域NPOでの持続可能な地域づくりの実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。</p> <p>「現代社会と地域」「地域環境論」「地域デザイン」「エコソリズム論」とあわせて受講するとより理解が深まります。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	NPO論の進め方、NPOとは何か？	事前配布資料を読み、NPOについての自身の考えを提出する。		
第2回	NPOが求められるようになった社会背景	事前配布資料を読み、自分の関心のあるNPOの活動分野を考える。		
第3回	NPOの定義 非営利活動とは？	インターネット等で関心のあるNPO法人の設立趣旨を調べる。		
第4回	NPOの理論 第4の経済主体	インターネット等で関心のあるNPO法人の事業内容を調べる。		
第5回	NPOの法と制度 特定非営利活動法人	福岡県下でのNPO設置申請の手続きについて調べる。		
第6回	行政との連携 協働とは？	指定管理者制度にもとづく身近な公共施設運営事例を調べる。		
第7回	企業とNPO CSRとは？	自分の希望就職分野でのCSR活動事例を調べる。		
第8回	社会的企業 NPOと収益事業	NPO法人が取り組む収益事業の事例を調べる。		
第9回	NPOのマネジメント	NPO法人の組織体制について事例を調べる。		
第10回	NPO活動の財源	NPO法人を対象とした助成金の申請条件などを調べる。		
第11回	豊かな暮らしとNPO	NPOが私たちの暮らしにもたらすメリットを考える。		
第12回	NPOを作ってみよう グループワーク ミッションの選定	筑紫女学園大学のリソースを活用したNPO活動を考える。		
第13回	NPOを作ってみよう グループワーク 事業内容	ミッションに基づく事業内容を考える。		
第14回	NPOを作ってみよう 発表会	設立趣旨、定款、収益事業、活動効果など発表資料を作成する。		
第15回	NPOで働くということ まとめと振り返り	事業の振り返りをしてきてください。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	60％（授業前課題20％、事後課題30％、振り返り10％）			
成果発表	30％ 個人でのNPO企画発表資料の作成（グループワークに基づき作成）			
受講態度他	10％ 授業参加。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>本科目は、この授業は、原則的に遠隔授業で行います。15回分の講義を、筑女ネットにあるNPO論のコースページを活用して進めます（MS Teamsへの移行あり）。より多くのNPO事例に接することで、社会課題の解決におけるNPOの役割と有効性への理解を深めるために、毎回特定非営利活動法人の活動紹介動画を視聴し課題を行います。グループワーク（オンラインやチャット）による学生NPOの設立企画を行います。積極的にグループでのディスカッションに参加して下さい。</p>			
教科書	なし			
指定図書	早瀬昇、水谷綾、永井美佳他、「テキスト市民活動論」、大阪ボランティア協会 澤村明、田中敬文他、はじめてのNPO論、有斐閣 日本NPOセンター 知っておきたいNPOのこと123			
参考図書	授業中に紹介する			
オフィスアワー	月曜日 3限、4限	メールアドレス		

授業科目	エコツーリズム論【講義】	開講時期	後期
担当教員	上村 真仁	単位	2
授業の目的と概要	世界の成長産業として注目されている観光業。中国や韓国など近隣諸国からのインバウンドの増加など地域社会を考える上で必要不可欠な課題です。我が国も観光立国を目指して様々な取り組みが進められていますが、その中で注目されているのがニューツーリズムと言われる体験型・着地型観光の取り組みです。 本講義では、その中でも自然地域における地方創生と自然観光資源の保全のために重要と考えられるエコツーリズムに着目し、取り組みの背景や理念、各地の事例を通して、その現状と課題を学びます。また、講義では、世界自然遺産やユネスコエコパークなどの保全と地域活性化に関わる類似の地域認証についても考察を行います。講義の後半では、太宰府近隣の自然・文化遺産地域でのフィールドワークを行い、持続可能な地域の実現に資する観光地域づくりのあり方について検討を行います。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成熟社会における持続可能な産業としてのツーリズムの基礎的な知見を身につける。</li> <li>・地域の自然資源を持続可能に利用するためのエコツーリズムの基本的な要件についての知識を得る。</li> <li>・エコツーリズムの基準について考え、地域の取り組みを評価し、改善策を提案できるようになる。</li> <li>・具体的地域を対象にフィールドワークを行い、エコツーリズムの理念に沿った持続可能な観光について提案をおこなう。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は民間シンクタンクにおいて官公庁の環境政策や地域振興施策の立案に関わり、また環境NGOや地域NPOでの持続可能な地域づくりの実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。</p> <p>「現代社会と地域」「地域環境論」「地域デザイン」「NPO論」とあわせて受講するとより理解が深まります。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	エコツーリズム論の射程 エコツーリズムとは何か？ 世界のエコツアー（環太平洋・インド洋）	シラバスに目を通して授業への質問等を考えてきてください。	
第2回	観光産業の概要とエコツーリズムの可能性	エコツーリズムの必要性とその役割について考えてくる	
第3回	エコツーリズム推進法とは 事例発表3名	エコツーリズム推進協議会のうち1つを選んで概要をまとめてくる。	
第4回	日本のエコツーリズム先進事例 事例発表3名	エコツーリズム大賞のうち、関心のある地区を1つ選びその内容を調べてくる	
第5回	ジオツーリズム（ジオパーク）とエコツーリズム 事例発表3名	ジオパーク事例地を1つ取り上げて調べてくる。	
第6回	世界自然遺産とユネスコエコパーク 事例発表3名	海外のエコツーリズム事例地を1つ取り上げてその概要を調べてくる。	
第7回	観光圏整備計画 事例発表3名	観光圏整備計画策定地域を1つ取り上げその概要を調べてくる。	
第8回	フィールドワークの準備 事例発表3名 世界のエコツアー（ユーラシア大陸）	フィールドワークにおいて着目すべき点を考えてくる。	
第9回	フィールドワーク（自然・文化体験）	フィールドでの体験、視察内容を記録する。	
第10回	フィールドワーク（自然・文化体験）	フィールドでの体験、視察内容をまとめる。	
第11回	フィールドワーク（自然・文化体験）	フィールドでの体験、視察内容を考察する。	
第12回	フィールドワークのまとめ 世界のエコツアー（アフリカ大陸）	フィールドワーク感想をまとめてくる。	
第13回	環境と観光の軋轢について 世界のエコツアー（南北アメリカ大陸）	環境開発が地域住民に反対される理由について考えてくる。	
第14回	グループ討議 自然環境資源の保全と持続可能な地域づくり	貴重な動植物、生態系保全のためのエコツーリズムの必要性について考える。	
第15回	まとめ 地域にとって望ましい観光のあり方とは	期末レポートの作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 地域にとって望ましい観光のあり方について授業を通じて学んだことを盛り込みレポートを作成する		
小テスト等	なし		
成果発表	20% エコツーリズム事例発表（各自1回は自分が行ってみたい地域のエコツーリズム事例を発表する）		
受講態度他	50% フィールドワークへの参加、授業でのディスカッションおよびコメントシートの提出状況		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この講義では、前半の受講生からの事例報告を行う。また、世界的な視野に立って自然や環境資源の魅力とその保全の重要性について理解を深めるために、映像資料の視聴とグループディスカッションを行います。加えて、実際にフィールドワークを行い、地域での自然の保護と利用の調整の課題について検討します。フィールドワークへの参加は必須としますが、止むを得ない場合は、代替の課題を検討します。		
教科書	なし。		
指定図書	地域資源を守っていかすエコツーリズム 敷田麻美、森重昌之 講談社 エコツーリズムを学ぶ人のために 真板昭夫、石森秀三、梅津ゆりえ 世界思想社		
参考図書	エコツーリズム 環境省編 日本交通公社		
オフィスアワー	月曜日 2限、3限、4限、水曜日 4限	メールアドレス	

授業科目	オタク文化論【講義】	開講時期	後期
担当教員	小山 昌宏	単位	2
授業の目的と概要	<p>1. サブカルチャーに発祥をもち、ポップカルチャーとともに隆盛したオタク文化について理解する オタクの心理的傾向、消費傾向、集団特性にみる若者のライフスタイルについて理解する</p> <p>2. 第1～5回は、おたくの定義、オタク文化に対する各論者の考え方を理解し、第6～8回は、戦後大衆文化の隆盛にあつてサブカルチャーの影響を受け独自に発展したオタク文化における若者のライフスタイルについて検討し、第9～15回は、第1～8回の理路、歴史、文化現象、時代背景、領域（ジャンル）について知識を得ることで、その内容を深く把握する</p> <p>3. 具体的には、講義後の配布資料、デジタル資料（筑女ネット）による復習、リアクションペーパーのまとめによる復習（振り返り）を踏まえ、立体的に講義内容を理解する</p>		
到達目標	<p>1. おたくの定義、オタク文化の形成、その発展から戦後日本文化への影響について説明ができる</p> <p>2. SF、同人誌、コスプレ、コミケ、アキバ系などから、オタク文化の特徴を理解し、そのカテゴリと内容について説明することができる</p> <p>3. サブカルチャーとサブカル、ポピュラーカルチャーとポップカルチャー、サブカルチャーとポップカルチャーの連続性と相違性において、オタク文化の位置づけを理解し、説明することができる</p> <p>4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、独自の「オタク像」「オタク文化観」を形成することができる</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>現 (3) -②-3 現代社会で活躍するために求められる特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連科目：サブカルチャー論</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オタクとは何か？ -サブカルチャーとしての御宅、おたく、オタク、ヲタク	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習	
第2回	政治の終焉とおたくの発祥 -ポップカルチャーとしてのオタク文化	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習	
第3回	岡田斗司夫と大塚英志のオタク論 -オタク第一世代の教養主義と歴史性	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習	
第4回	宮台真司と大澤真幸のオタク論 -オタク文化が社会学に与えた影響とは？	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習	
第5回	斎藤環と東浩紀のオタク論 -オタクのカテゴリ化と「ひきこもり」について	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習	
第6回	オタク文化と若者論 -オタク青年のライフスタイルとライフサイクル	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習	
第7回	オタクのセクシャリティと消費文化 -ギャル文化に発するオタク・リア充とヲタク・非リア充の日常	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習	
第8回	オタクの「場」と「街」の形成 -アキバのメイド文化と中野ブロードウェイ・池袋乙女ロード	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習	
第9回	SF文化とオタク -オタク文化の源流とSFマインド	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習	
第10回	同人誌文化とオタク -コミックマーケットと同人誌文化	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習	
第11回	コスプレ文化とオタク -コスプレイヤーとロリータの共通性と相違性	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習	
第12回	オタク文化とキャラクター論 -なぜ私たちはキャラクターを愛するのか	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習	
第13回	オタク文化とメディア論 -メディアはオタクをどのように報道してきたのか	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習	
第14回	オタク女子・腐女子・夢女子論 -「耽美」「やおい」「BL」を読む、読まないそのラインについて	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習	
第15回	まとめ 討論・報告会	レポート作成準備をおこなう	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	70％（期末レポート） 15％（出席シート：リアクションペーパーの内容）		
小テスト等	なし		
成果発表	15％（15回 討論・報告会プレゼンの評価）		
受講態度他	第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 教科書はありません。レジュメ（配布資料）は各回配布いたします</p> <p>2. この授業では、毎回、リアクションペーパー内容をまとめ、要点整理の上、次回授業のはじめに質問にお応えします（復習）</p> <p>3. 期末レポートは筑女ネットの専用BOXに提出します。</p> <p>4. 期末レポートの内容、提出日については第10回目の授業で、評価基準とともに提示します。</p> <p>5. リアクションペーパーと振り返りによる学習効果を、期末レポート作成に活かします</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	<p>吉本たけまつ『おたくの起源』（NTT出版）</p> <p>大塚英志『「おたく」の精神史 一九八〇年代論』（朝日文庫）</p>		
オフィスアワー	水曜日の昼休み またはメールで相談	メールアドレス	

授業科目	コンテンツビジネス論【講義】		開講時期	後期
担当教員	小山 昌宏		単位	2
授業の目的と概要	<p>1. ポップカルチャーとビジネスの結びつきについて理解し、出版、映像、音楽産業の実態、知的財産権と著作権に関する基礎知識を取得する。</p> <p>2. 第1回は授業の学習範囲、その効果、第2～4回は出版、映像、音楽産業の現状について学び、第5～10回は、各分野の著作権についての基礎知識を取得、第12～15回は、コンテンツビジネスの根幹であるキャラクタービジネスの実務について学ぶ。</p> <p>3. 1. 2によりコンテンツビジネスの概要と実務の基本的な考え方を身につけることができる。</p> <p>4. 具体的には、デジタル資料による予習、講義資料による復習、リアクションペーパーのまとめによる再復習により効果をあげる。</p>			
到達目標	<p>1. ポップカルチャーのビジネス展開について、産業、知財・著作権、ビジネス実務の3つの視点から「コンテンツビジネス」の概要を説明できる。</p> <p>2. 出版・映像産業、音楽・ゲーム産業、インターネット産業の歴史、各産業の特徴について説明ができる。</p> <p>3. 知的財産権と著作権の概要、各産業におけるその特徴、実務について説明ができる。</p> <p>4. コンテンツビジネスの根幹にあるキャラクタービジネスの概要とプロデュースの過程について報告ができる。</p> <p>5. キャラクター創作、育成プランを立案、プロデュースすることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。</p> <p>現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連科目：メディアと文化</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	コンテンツビジネスの範囲 一 知的財産権と著作権	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第2回	コンテンツ産業① 出版・映像分野	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第3回	コンテンツ産業② 音楽・音声・ゲーム分野	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第4回	コンテンツ産業③ インターネット分野	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第5回	著作権① 出版物の流通システム 一委託再販制度の課題	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第6回	著作権② マンガ出版に関わる実務	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第7回	著作権③ 映像・映画・アニメビジネスの実務	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第8回	著作権④ 映画・音楽・ライブビジネスの実務	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第9回	著作権⑤ 映画・ゲーム・インターネットビジネスの実務	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第10回	知的財産権 コンテンツビジネスの実務	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第11回	コンテンツビジネス① キャラクター育成と支援演習	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第12回	コンテンツビジネス② キャラクターとブランド	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第13回	コンテンツビジネス③ コンセプトとマーケティング	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第14回	コンテンツビジネス④ マーチャンダイジングとブランディング	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第15回	コンテンツビジネス⑤ コミュニティ・ブランディングとアートプロデュース	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30%（中間レポート） 50%（期末レポート） 20%（出席シート：リアクションペーパーの内容）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	初回の授業時に受講の心得についてお話しします。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 教科書はありません。毎回プリントを配布いたします。プリント、補足資料などは筑女ネットにアップします。</p> <p>2. 中間レポート提出は課題テーマ（予め設定されている）、期末レポート提出は自由テーマ（自分で設定できる）になります。</p> <p>3. 中間レポート、期末レポートは筑女ネットの専用BOXに提出します。</p> <p>4. 中間レポートの提出日は第2回の授業で、期末レポートの提出日については第10回目の授業で、内容、評価基準とともに提示します。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	<p>岸川善光 編『コンテンツビジネス特論』（学文社）</p> <p>キャラクターマーケティングプロジェクト 編『キャラクターマーケティング』（日本能率協会マネジメントセンター）</p>			
オフィスアワー	水曜日の昼休み またはメールで相談	メールアドレス		

授業科目	サブカルチャー論【講義】		開講時期	前期
担当教員	小山 昌宏		単位	2
授業の目的と概要	<p>1. ポピュラー文化における「サブカルチャー」分野について学ぶ。ポイントは、欧米で定義されるサブカルチャーが日本でいかに変容し、戦後日本文化において中心的な役割を担ってきたのか、その社会現象、歴史、文化について理解する</p> <p>2. 第1～3回は、サブカルチャーの定義、学説、歴史について、第4回は、サブカルチャーとアートとの関係、第5回～8回は、欧米のロックミュージック、日本のフォーク、ロックミュージックを視聴しつつ戦後大衆文化の歴史について学び、第9～15回は、各テーマ別にその内容を把握し、サブカルチャーの文化現象、時代背景、領域（ジャンル）について知識を得る</p> <p>3. 具体的には、講義後の配布資料、デジタル資料（筑女ネット）による復習、リアクションペーパーのまとめによる復習（振り返り）を踏まえ、立体的に講義内容を理解する</p>			
到達目標	<p>1. サブカルチャーの定義、サブカルチャーの形成、その発展から戦後日本文化への影響について説明ができる</p> <p>2. SF、フリークス、オカルト、ニューサイエンス、ニューメディアなど、サブカルチャーの категорияとその内容について説明することができる</p> <p>3. サブカルチャーとサブカル、ポピュラーカルチャーとポップカルチャー、サブカルチャーとポップカルチャーの連続性と相違性について理解し、説明ができ、報告することができる</p> <p>4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、独自の「サブカルチャー観」を形成することができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連科目：オタク文化論</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	サブカルチャーとは何か？ -その定義、範疇、歴史の概要	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第2回	日本における大衆文化の基礎形成 -江戸、明治、大正、昭和初期の繁華街と享楽街	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第3回	非行文化と犯罪社会学 -モッズ、ロッカーズからアキバ系、ビジュアル系へ	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第4回	サブカルチャーとアート -W.モリスからダリ、A.ウォーホルから現代アートへ	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第5回	欧米におけるロックミュージック -ドラッグとロックビジネス ビートルズからオアシスへ	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第6回	アメリカにおけるヒッピー文化 -ウッドストックコンサート R、ヘブンスからジミ・ヘンドリックスまで	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第7回	日本におけるサブカルチャー① 60年代フォーク・ミュージック 岡林信康から吉田拓郎まで	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第8回	日本におけるポップカルチャー② 70年代ロック・ミュージック タイガースから山下達郎まで	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第9回	日本におけるアイドル文化 -80年代アイドル、秋元康、つくくの方法論	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第10回	スピリチュアルとオカルト -心霊現象、UFO、UMAになぜ人は惹かれるのか？	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第11回	フリークスとカルト -怪物、奇形、人造人間が反映する人心の闇について	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第12回	都市伝説とホラー -コンビニ・コミックにみる「噂」「デマ」「不安」の影響	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第13回	サブカルチャーとゲーム -アナログゲーム/デジタルゲームにおけるプレイヤーとは？	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第14回	民俗学と特撮ドラマ -ウルトラマンシリーズにおけるキリスト教・仏教の影響とは？	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第15回	まとめ 報告会	報告会を受け、期末レポートの作成をおこなう		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％（期末レポート） 20％（出席シート：リアクションペーパーの内容）			
小テスト等	なし			
成果発表	10％（15回目の報告 or 討論の評価）			
受講態度他	第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 教科書はありません。毎回プリントを配布いたします。プリント、補足資料などは筑女ネットにアップします。</p> <p>2. 期末レポートは筑女ネットの専用BOXに提出します。</p> <p>3. 期末レポートの提出日、内容、評価基準については第10回目の授業で提示します。</p> <p>4. リアクションペーパーにて質疑応答をおこないます。Q&amp;Aは次回授業時に反映されます。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で参考文献一覧表を配布します。			
オフィスアワー	水曜日の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		

授 業 科 目	ジャーナリズム論【講義】		開 講 時 期	後 期
担 当 教 員	吉野 嘉高		単 位	2
授 業 の 目 的 と 概 要	<p>今、ジャーナリズムが揺らいでいる。ニュースメディアに対する不信感が、日本だけでなく、世界各国で広がっており、民主主義の原動力としての機能に、新たな問いがいくつも突き付けられている。この授業では、世界同時多発的なメディア不信の現状を俯瞰し、それをもたらした社会的、技術的背景を掘り下げることで、現代ジャーナリズムの課題を浮き彫りにする。</p> <p>また、満州事変以降、新聞や放送メディアが日本社会でどのように機能してきたかを振り返ることで、日本のジャーナリズムの「現在」を「過去」と関連づけて考察する。</p>			
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャーナリズムと民主主義社会との関係について説明できる。</li> <li>・ドイツ、イギリス、アメリカのメディアについて説明できる。</li> <li>・日本の報道機関の特徴と問題点について説明できる。</li> <li>・日本の報道機関の歴史について説明できる</li> </ul>			
こ の 授 業 が 目 的 と し て い る DP や 関 連 す る 科 目 な ど	<p>現 (3) -②-3 現代社会で活躍するために求められる特定分野の知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は放送関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授 業 計 画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第 1 回	オリエンテーション ジャーナリズムの役割と民主主義社会	予習・復習		
第 2 回	ニュースメディアへの不信感① ～ジャーナリズム論受講生の意識は？～	予習・復習		
第 3 回	ニュースメディアへの不信感② ～ドイツの場合～	予習・復習		
第 4 回	ニュースメディアへの不信感③ ～イギリスの場合～	予習・復習		
第 5 回	ニュースメディアへの不信感④ ～米国の場合～	予習・復習		
第 6 回	ニュースメディアへの不信感⑤ ～日本の場合～	予習・復習		
第 7 回	ニュースメディアとしてのSNS	予習・復習		
第 8 回	「客観報道」の幻想① ～エコナクッキングオイル報道～	予習・復習		
第 9 回	「客観報道」の幻想② ～反原発報道～	予習・復習		
第10回	記者クラブの構造① ～メリットとは～	予習・復習		
第11回	記者クラブの構造 ～デメリットとは～	予習・復習		
第12回	日本のジャーナリズムの歴史① ～中立新聞の誕生～	予習・復習		
第13回	日本のジャーナリズムの歴史② ～満州事変から日中戦争～	予習・復習		
第14回	日本のジャーナリズムの歴史③ ～太平洋戦争から戦後～	予習・復習		
第15回	まとめ	復習		
成 績 評 価	割 合 ( % ) 、 種 類 ・ 評 価 基 準 な ど			
定期試験	-			
レポート	期末レポート30%			
小テスト等	50% (授業の最後に毎回実施)			
成果発表	-			
受講態度他	20% 積極的な受講態度を重視			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>パワーポイントで作成した資料や、映像資料を使います。</p> <p>クリッカーによるアンケートなどアクティブラーニングを適宜行います。</p> <p>毎回授業の最後に小テストを実施します。授業を聴いていれば、簡単に答えることができます。</p> <p>小テストの配点が大きいことに注意してください。</p>			
教科書	林香里『メディア不信 何が問われているのか』岩波新書			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	ビジネスプレゼンテーション【講義】		開講時期	後期
担当教員	大橋 健治		単位	2
授業の目的と概要	日本企業の知恵の結晶として生まれ運用されてきた「稟議」による意思決定システムは、関係者全員の同意のもとに行うという利点を有するが、他面、時間がかかり視野の狭い決定になりがちとの批判もある。また責任が不明確になり、管理者の指導力が発揮しがたいといった欠点を伴う。最近では、当該ビジネス案件の関係者が一堂に会し、プレゼンテーションを用いた意思決定をする組織が増えている。本授業では、ビジネスの場でプレゼンテーションを行う際に、心がけなければならない要素（目的の明確化・出席者ニーズの把握・筋書の明確化・不測の事態への対処・プレゼンスキル）について、分かるからできるを目指した学習を行うたい。そのために、この授業はTBL (Team-Based Learning) とロールプレイを組み合わせたアクティブ・ラーニングで構成する。			
到達目標	1. ビジネスプレゼンテーションで心がけなければならない要素（目的の明確化・出席者ニーズの把握・筋書の明確化・不測の事態への対処・プレゼンスキル）が理解できる。 2. ビジネスプレゼンテーションで心がけなければならない要素（目的の明確化・出席者ニーズの把握・筋書の明確化・不測の事態への対処・プレゼンスキル）が実践できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は一般企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 関連する科目：ビジネスコミュニケーション、ビジネス実務総論、ビジネス実務演習など			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定		
第2回	クラスビルディング演習	事後学修 クラスビルディングでの気づきのまとめ		
第3回	教科書第1章「ビジネスプレゼンテーション」の内容理解	受講ノートの指示に沿った第1章の事前学修と事後学修		
第4回	教科書第2章「プレゼンテーションの構成」の内容理解	受講ノートの指示に沿った第2章の事前学修と事後学修		
第5回	教科書第3章「話のしかたと資料」の内容理解	受講ノートの指示に沿った第3章の事前学修と事後学修		
第6回	教科書第4章「視覚資料の作成」の内容理解	受講ノートの指示に沿った第4章の事前学修と事後学修		
第7回	教科書第4章「視覚資料の作成」のロールプレイ	受講ノートの指示に沿った第4章のロールプレイの準備と気づきのまとめ		
第8回	教科書第5章「プレゼンテーションの実施」の内容理解	受講ノートの指示に沿った第5章の事前学修と事後学修		
第9回	教科書第5章「プレゼンテーションの実施」のロールプレイ	受講ノートの指示に沿った第5章のロールプレイの準備と気づきのまとめ		
第10回	教科書第6章「プレゼンテーションの実践力をつける」の内容理解	受講ノートの指示に沿った第6章の事前学修と事後学修		
第11回	教科書第6章「プレゼンテーションの実践力をつける」のロールプレイ	受講ノートの指示に沿った第6章のロールプレイの準備と気づきのまとめ		
第12回	成果発表用の事例提示	事例の意図と準備せねばならない事項の吟味とシミュレーション		
第13回	成果発表Ⅰ（全受講者の内5～7名）	成果発表Ⅰでの気づきのまとめ		
第14回	成果発表Ⅱ（全受講者の内5～7名）&受講ノートの提出	成果発表Ⅱでの気づきのまとめ		
第15回	成果発表Ⅲ（全受講者の内5～7名） 授業の振り返り&受講ノートの返却	成果発表Ⅲでの気づきのまとめ		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 受講ノートの提出（最終ページの「授業を振り返って」を必ず記述のこと） ※受講ノートは最終回に返却（フィードバック）します			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ スライドを用いたプレゼンテーション			
受講態度他	50％ アクティブ・ラーニングへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように、本授業ではTBL (Team-Based Learning) とロールプレイを組み合わせたアクティブ・ラーニングで構成する。アクティブ・ラーニングを成立させる大前提は、個々の学生による自らとチームの仲間の学修への責任をもった授業外学修と、教員との相互確認（質疑応答）である。これを怠る学生は授業の場に入場することを認めない。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。			
教科書	『ビジネスプレゼンテーション（改訂版）』（森脇 道子監修、武田 秀子編著、2011年、実教出版）			
指定図書	『小室淑恵の超実践プレゼン講座』（小室淑恵著、2008年、日経BPMック）			
参考図書	『30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2019-Windows10対応』（実教出版企画開発部著、2020年、実教出版）			
オフィスアワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	ビジネス実務演習Ⅱ【演習】		開講時期	前期
担当教員	大橋 健治		単位	2
授業の目的と概要	<p>企業や自治体などの組織は長期、中期、短期の目標をもって活動する。ビジネス実務とは、チームが担う課題達成に向けた仕事（協働）と、個人が担う役割達成に向けた仕事（個働）の二つの側面からみた活動である。本授業では、この協働と個働の二側面からビジネスマナーの基本を学び、職場で大切にされる価値観や職場でのマナーの基本を修得することを目的とする。本年度は遠隔授業となったため、ロールプレイング（役割演技）は実施せずに抄読会形式で運営する。抄読会とは、学生が自分の研究テーマに基づいて選んだ文献を深く読み、その内容と得られた示唆を報告しあう場のことを言う。この授業では、文献をインターネットサイト「ビジネスマナー講座」に統一し、各回の課題を閲覧して、読み手によって内容のとりえ方が多様であることを感じてもらうような彼我比較の場としたい。</p>			
到達目標	<p>1. ビジネス実務の概念が理解できる。 2. ビジネス実務に就く上で必要となる基礎知識を身につけることができる。</p>			
この授業が目的としてDPや関連する科目など	<p>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は一般企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。関連する科目；ビジネス実務演習Ⅰ、組織行動論など</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業の概要説明とクラスのメンバーの自己紹介	シラバスの内容の詳解、自己紹介シートの提出		
第2回	人間関係、気配り	インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修		
第3回	チームワーク、時間のマナー	インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修		
第4回	挨拶、笑顔	インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修		
第5回	役職の順番、上座下座	インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修		
第6回	身だしなみ、言葉遣い	インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修		
第7回	話の聞き方、態度・姿勢	インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修		
第8回	指示の受け方、報連相のマナー	インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修		
第9回	報告の仕方	インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修		
第10回	電話応対、メールのマナー	インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修		
第11回	名刺交換、来客応対	インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修		
第12回	お茶の出し方、訪問のマナー	インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修		
第13回	クレーム対応、封筒のマナー	インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修		
第14回	ケーススタディ	教員が出題するケースに基づいた事前学修、事後学修		
第15回	修了レポートの作成にあたって	質問や問題提起の準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 修了レポートの提出			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 参加の積極性（質問や議論の題材の提供）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように、本授業ではロールプレイング（役割演技）を中心としたアクティブ・ラーニングを導入する。アクティブ・ラーニングを成立させる大前提は、個々の学生による責任をもった授業外学修である。これを怠る学生は授業の場に入ることを認めない（欠席扱いとする）。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。</p>			
教科書	NET上のビジネスマナー講座のサイト閲覧を利用する			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日の14：00～17：00	メールアドレス		

授業科目	ビジネス実務総論【演習】		開講時期	後期
担当教員	大橋 健治		単位	1
授業の目的と概要	<p>企業があれ公共事業体であれ、組織は長期、中期、短期の目標をもって活動する。ビジネス実務とは、チームが担う課題達成に向けた仕事（協働）と、個人が担う役割達成に向けた仕事（個働）の二つの側面からみた活動である。本授業では、この協働と個働の二側面からビジネス実務を学び、職場で大切にされる価値観や職場での身の処し方の基本を修得することを目的とする。授業の目的を効果的に達成するために、TBL (Team-Based Learning) といわれるアクティブ・ラーニングの手法を導入する。TBLを成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学修に取り組み→授業において真摯にチームで討議を行い→クラス全体で討議を行うとともに→教員からのメッセージを受け取り、気づきを内省するというプロセスが不可欠である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネス実務の概念が理解できる。</li> <li>2. ビジネス実務に就く上で必要となる基礎知識を身につけることができる。</li> <li>3. ビジネス実務に就く上での持論を語るすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は一般企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連する科目；ビジネス実務演習、組織行動論、人的資源管理論など</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス（演習の内容と方針の説明）	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定		
第2回	TBLのしくみの解説とチームビルディング	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定		
第3回	第1章 ビジネス実務とは何か	受講ノートの指示に沿った教科書第2章の事前学修・事後学修		
第4回	第2章 ビジネスとは何か	継続して受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること		
第5回	第3章 ビジネスの管理Ⅰ 利益	受講ノートの指示に沿った教科書第3章の事前学修・事後学修		
第6回	第4章 ビジネスの管理Ⅱ 組織と人材	受講ノートの指示に沿った教科書第4章の事前学修・事後学修		
第7回	第5章 ビジネスの管理Ⅲ 社会・経済・法規・倫理	受講ノートの指示に沿った教科書第5章の事前学修・事後学修		
第8回	第6章 個人業務とマネジメント	受講ノートの指示に沿った教科書第6章の事前学修・事後学修		
第9回	第7章 協働業務とマネジメント	受講ノートの指示に沿った教科書第7章の事前学修・事後学修		
第10回	第8章 キャリアデザインと能力開発	受講ノートの指示に沿った教科書第8章の事前学修・事後学修		
第11回	第9章 ビジネスコミュニケーションⅠ 職場	受講ノートの指示に沿った教科書第9章の事前学修・事後学修		
第12回	第10章 ビジネスコミュニケーションⅡ 会議	受講ノートの指示に沿った教科書第10章の事前学修・事後学修		
第13回	第11章 ビジネス実務に大きな影響を与える要因 グローバル化	成果発表の準備と授業内容の振り返り		
第14回	成果発表と質疑応答 受講ノートの提出	成果発表の準備と授業内容の振り返り		
第15回	授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却	過去14回の授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返りを必ず記述のこと） ※受講ノートは最終回に返却（フィードバック）します			
小テスト等	なし			
成果発表	20% オーラル・プレゼンテーション			
受講態度他	50% TBLへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように、本授業ではTBL (Team-Based Learning) を導入する。TBLを成立させる大前提は、個々の学生による自らとチームの仲間の学修への責任をもった授業外学修と、教員との相互確認（質疑応答）である。これを怠る学生は授業の場に入ること認めない。</p> <p>初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。</p>			
教科書	九州TBL研究会が作成した「ビジネス実務総論」の教科書をプリントにして配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	マンガ・アニメ論【講義】		開講時期	前期
担当教員	小山 昌宏		単位	2
授業の目的と概要	1. アニメーションの発明から、日本で独自に発展した「アニメ」の原理、歴史、文化現象について理解する 2. 第1回～2回にて、アニメーションの発明、その原理、発展の歴史について学び、第3～5回にて、戦後日本のアニメーションの両軸である「虫プロ」と「東映動画」の歴史、手塚治虫と宮崎駿に焦点をあて、第6～13回にて、アニメメディアの特性を課題別に検証することでアニメに関する基礎知識を身につけ、最後に第14～15回にて、メディアミックスの成功事例としての「うた☆プリ」と「デジタルアニメ」の可能性について理解する 3. 具体的には、講義前の教科書による予習、講義を受けた後のデジタル「資料」による復習、リアクションペーパーまとめによる復習（振り返り）を踏まえ、立体的に講義内容を理解する			
到達目標	1. アニメーションの原理、その発展から日本のアニメーションへの変遷について説明することができる。 2. アニメメディア、アニメ文化の概要について、説明することができる。 3. アニメ文化が有する諸問題点を発見し、それについて掘り下げ、考えることができ、その内容について報告することができる。 4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、自分独自の「アニメ観」を形成することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 現 (3) -②-3 現代社会で活躍するために求められる特定分野の知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 関連科目：サブカルチャー論 メディアと文化			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	漫画と動画 -マンガとアニメーション 2つのメディアの共通性と相違性	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習		
第2回	マンガとアニメ -1950年以前の日本アニメーション史 「なまくら刀」から「トラちゃんのかんかん虫」まで	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習		
第3回	手塚治虫とアニメーション -「虫プロのアニメ」化と実験アニメーション	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習		
第4回	東映動画とアニメ -高畑勲「太陽の王子ホルスの大冒険」にみる「東洋のディズニー」の完成	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習		
第5回	宮崎駿のアニメーション - 「かわいい」と「自然」の妙味が織りなす高揚感	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習		
第6回	映像論 -アニメの映像機能を読む ～「細田守」から「吉浦康裕」作品まで ※	教科書を予習する（第2章：映像論）		
第7回	アニメ史論 -撮影技術、演出、アニメ雑誌の影響について ※	教科書を予習する（第5章：歴史研究）		
第8回	ジェンダー論 -アニメ・キャラクターの性の多様性 「白雪姫」から「草薙素子」へ ※	教科書を予習する（第3章：ジェンダー研究）		
第9回	音声論 -「音声」「音楽」「効果音」の役割について 「蒸気船ウィリー」から「頭文字D」まで ※	教科書を予習する（第4章：サウンド／ヴォイス研究）		
第10回	文学批評理論 -批評視点からアニメを読む 「うる星やつら」から「輪るピングドラム」まで ※	教科書を予習する（第1章：文学理論研究）		
第11回	コンテンツ論 -劇場アニメ、早朝・昼間アニメ、深夜アニメのプロデュース方法について ※	教科書を予習する（第8章：コンテンツ研究）		
第12回	美学・芸術論 -美と汎美の差異について グリモ、新海誠から「まどか☆マギカ」へ ※	教科書を予習する（第7章：アート研究）		
第13回	視聴覚情報論 -映像情報はどのように伝わるのか ～「となりのトトロ」を題材にして ※	教科書を予習する（第9章：オーディオ・ビジュアル研究）		
第14回	アニメ創造・制作論 -「うたの☆プリンスさまっ♪」の魅力を探る	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習		
第15回	アニメ創出過程論 -セルアニメからデジタルアニメ、2D、3Dアニメーションへの進化	レポート作成準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％（期末レポート） 20％（出席シート：リアクションペーパーの内容）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 教科書を使用します。教科書の頒布については第1回目の授業内で要領をお話しします。 2. この授業では、毎回、リアクションペーパー内容をまとめ、要点整理の上、次回授業のはじめに振り返り紹介いたします（復習） 3. 第1～5、14～15回はレジュメを配布します。第6～13回は教科書を使用します（※表示） 4. すべての授業の資料はPDFを筑女ネットにあげますので復習にやくだてることができます			
教科書	小山昌宏・須川亜紀子編『アニメ研究入門 アニメを極まる9つのツボ』（現代書館）			
指定図書	米村みゆき・須川亜紀子編『アニメ文化 55のキーワード』（ミネルヴァ書房）			
参考図書	津堅信之『日本アニメーションの力—85年の歴史を貫く2つの軸』NTT出版／高橋光輝・津堅信之編『アニメ学』NTT出版			
オフィスアワー	水曜日の昼休み、またはメールにて相談	メールアドレス		

授業科目	メディアリテラシー論【演習】		開講時期	前期
担当教員	須藤 遙子		単位	2
授業の目的と概要	この講義では、テレビと新聞という二大マスメディアの分析を通じて、情報リテラシーを身につける。調査・分析能力、プレゼンテーション能力を高める。課題とは別に、全員に1回「今週の気になったニュース」を発表してもらいます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で問題を設定し、的確な方法で分析ができる。</li> <li>・プレゼンテーション能力が身につく。</li> <li>・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。</li> <li>・テレビ局や新聞社の特性による情報の違いを理解する。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」  現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。</p> <p>関連する科目：コンテンツ分析演習、文化産業論など</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は放送局で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。	新聞、テレビのニュースに目を通す。		
第2回	メディアとは	「マス・メディア」「マスコミ」「デジタル」等の用語理解・復習。		
第3回	大衆（マス）とは	大衆という概念、その社会的背景、パーソナルへの移行を理解・復習。		
第4回	近代社会の誕生	マス・メディアが生まれる基盤となる近代社会についての理解・復習。		
第5回	新聞の歴史	各自新聞を読んだ理解・復習。		
第6回	雑誌の歴史	各自雑誌を読んだ理解・復習。		
第7回	ビデオ学習（1）メディアリテラシーに関するドキュメンタリー番組の視聴	これまでの授業内容に関するミニレポート。		
第8回	ラジオの歴史	各自ラジオを聴いての理解・復習。		
第9回	テレビの歴史	各自テレビを視聴しての理解・復習。		
第10回	消費社会とメディア（1）大量消費社会の発達	各自自身の消費行動を振り返りながらの理解・復習。		
第11回	消費社会とメディア（2）記号とイメージ	身の回りの記号とイメージを考察しながらの理解・復習。		
第12回	インターネットメディア、SNS	自身のスマートフォンの使用方法を振り返りながらの理解・復習。		
第13回	ビデオ学習（1）メディアリテラシーに関するドキュメンタリー番組の視聴	自宅での復習。		
第14回	メディアリテラシーの概念、目的、総括	これまでの内容のレポートまとめ。		
第15回	まとめ。	復習。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	40％			
小テスト等	％			
成果発表	40％（フォーラムへの投稿など課題への取り組み含む）			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業は遠隔で行います。出席は、各回の「理解度チェック」への回答で確認します。質問は全員が共有できるよう、筑女ネット「質問箱」をお願いします。その他、細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。			
教科書	なし。適宜指示します。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスアワー	火曜10-12時	メールアドレス		

授業科目	メディア倫理（法含む）【講義】		開講時期	後期
担当教員	須藤 遙子		単位	2
授業の目的と概要	メディア側の取材・報道姿勢を学ぶと同時に、民主主義を担う受け手側の市民意識についても考える。メディアはどのように報道すべきかを考え、また受け手としてのメディア・リテラシーも同時に身につけていく。ディスカッションにより、自分の考えを深め表現するスキルを磨く。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアによる報道を批判的に受容できる。</li> <li>・自分の考えを論理的に展開し、発表ができる。</li> <li>・他人の発表に対し、的確なコメントが言える。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現（3）-②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は放送局で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。	NHKニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。		
第2回	メディアをとりまく法制	民放（キー局）ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。		
第3回	虚偽・捏造報道（1）新聞における有名事件	民放（地方局）ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。		
第4回	虚偽・捏造報道（2）テレビにおける「やらせ」とは	朝日新聞を読んで、取材・報道姿勢を考える。		
第5回	虚偽・捏造報道（3）テレビにおける有名事件	産経新聞を読んで、取材・報道姿勢を考える。		
第6回	戦争報道（1）戦争における報道の特徴・問題点	読売新聞を読んで、取材・報道姿勢を考える。		
第7回	戦争報道（2）マスコミの役割と影響力	毎日新聞を読んで、取材・報道姿勢を考える。		
第8回	戦争報道（3）北朝鮮ミサイル問題	日経新聞を読んで、取材・報道姿勢を考える。		
第9回	SNS（1）発信・受信の容易さの問題	Yahooニュースを見て、取材・報道姿勢を考える。		
第10回	SNS（2）フェイクニュースとは	LINEニュースを見て、取材・報道姿勢を考える。		
第11回	SNS（3）慰安婦報道	テレビ局ネットサイトを見て、取材・報道姿勢を考える。		
第12回	私企業としての□マスコミ	新聞社ネットサイトを見て、取材・報道姿勢を考える。		
第13回	政治との関連	通信社ネットサイトを見て、取材・報道姿勢を考える。		
第14回	表現の自由とは：憲法をふまえて	メディアの違いに注目しながら、取材・報道姿勢を考える。		
第15回	まとめ	復習。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	70％（小レポート）			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業内の私語・スマートフォン使用厳禁。対面でのコミュニケーション能力養成のため、メールでの連絡は原則禁止とします。用件のある学生は授業前後やオフィスアワーに直接話しにきてください。毎回気になった今週のニュースを順番に発表してもらいます。			
教科書	なし。適宜プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	必要な場合は、授業内で指示します。			
オフィスアワー	月曜日昼休み。	メールアドレス		

授業科目	メディア論【講義】		開講時期	後期
担当教員	吉野 嘉高		単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアを作り出したのは、私たち人間である。一方で、メディアが私たちの日常の思考や身体感覚、社会的コミュニケーションのあり方に影響を与えることで現代人を作り出し、世界を変えてきたともいえる。この両方のプロセスについて理解を深める。</li> <li>・また、各メディアの現状や問題点について理解する。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアが社会をどう変えたのか、説明できること</li> <li>・メディアが私たちの思考や感覚に及ぼす影響について説明できること</li> <li>・各メディアの現状や問題点を具体的に述べる事ができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。  現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は放送関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	配布資料を熟読		
第2回	「メディア」「メディア学」とは何か	配布資料を熟読		
第3回	「メディアはメッセージ」とは	テキスト 第1章に関する課題		
第4回	「音声メディア」から「視覚メディア」への変化	テキスト 第1章に関する課題		
第5回	「視覚メディア」から「電子メディア」への変化	テキスト 第7章に関する課題		
第6回	インターネットの現状と問題点 ～ネット炎上ほか～	テキスト 第7章に関する課題		
第7回	インターネットの現状と問題点 ～政治的無関心ほか～	テキスト 第6章に関する課題		
第8回	テレビの誕生と現状	テキスト 第6章に関する課題		
第9回	テレビの問題点	テキスト 第6章に関する課題		
第10回	ゲスト講師による放送メディアの現状	配布資料の熟読		
第11回	映画の誕生と現状	テキスト 第4章に関する課題		
第12回	出版の現状と問題点	テキスト 第5章に関する課題		
第13回	広告の現状と問題点	期末レポートに向けてテキストを熟読する。		
第14回	プロパガンダと情報操作	期末レポートの構成を考える。		
第15回	まとめ	レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	30%（期末レポート）			
小テスト等	30%（基本的に授業中に毎回実施）			
成果発表	20%（課題提出、グループ別発表等）			
受講態度他	20% 積極的な受講態度を重視			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の最後に小テストを実施。授業を聴いていれば、答えることができます。  教科書は必ず入手してください。  小テストの配点が大きいことに注意してください。ゲスト講師の都合でスケジュールに変更もあり。</p>			
教科書	渡辺 武達 田口 哲也 吉澤 健吉 『メディア学の現在（新訂第2版）』世界思想社			
指定図書	-			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（12：30～13：00）	メールアドレス		

授業科目	環境マネジメント【講義】		開講時期	後期
担当教員	篠崎 真美		単位	2
授業の目的と概要	<p>授業目的は、環境経営の基本的フレームワークである“環境マネジメントシステム（エコアクション21・国際標準環境規格ISO14001）”により、企業がどの様なライフサイクル（エコ商品の開発、生産管理、取引先管理、製造など）を通じ環境問題を管理しているかを理解し、身近な環境プロジェクトを立案する実践力を養うことである。</p> <p>授業では環境マネジメントに必要な基礎的知識を習得し、後半では本学の学内エコツアーにてエネルギー調査を行い、省エネエコ活動プロジェクトの企画、実施、成果物を作成する。</p>			
到達目標	<p>①環境マネジメントシステムISO14001の実施計画から環境影響評価と環境側面抽出ができる。</p> <p>②環境プロジェクトの立案（課題抽出・解決方法の提案）ができる。</p> <p>③必要なデータの入手、データ分析、調査（インタビュー、実地調査）、報告書をまとめることができる。</p> <p>④省エネエコ活動プロジェクトの成果物を完成することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>現 (4) -①-これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は企業内環境対策実務経験のある教員が担当しており、実務経験と環境学研究により『授業の目的と概要』記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス・地球環境問題情勢（SDGs、気候変動、エネルギー問題）	復習：日本のエネルギー課題について調べてくる		
第2回	環境マネジメントシステムの概要	復習：環境マネジメントシステムの概要をまとめる		
第3回	（講義）環境報告書（サステイナブル報告書）のケース学習	復習：各人が興味ある企業の「環境報告書」を調べ、発表資料PPを作成		
第4回	環境報告書調査発表・学習 *履修者数によって数回の授業をあてがう	復習：発表資料PP作成・発表練習		
第5回	環境報告書調査発表・学習 *履修者数によって数回の授業をあてがう	復習：発表資料PP作成・発表練習		
第6回	訪問企業選定・「環境報告書」分析・インタビュー項目（環境パフォーマンス）作成	復習：フィールドワーク準備		
第7回	フィールドワーク：企業訪問・インタビュー *履修者で日程調整を行う	復習：インタビュー報告書作成（A42枚程度、規定フォーマット）		
第8回	環境プロジェクト演習①：省エネルギーエコ活動プロジェクト（節減活動プロジェクト企画） 学内エコツアー（予定）	復習：調査方法を考えてくる		
第9回	環境プロジェクト演習②【PBL】 筑紫女学園大学内のエネルギー調査：省エネパトロール[課題探究型]	グループワークの課外作業：必要なデータはなにか整理する		
第10回	環境プロジェクト演習③【PBL】【グループワーク】 データ分析・成果物作成[可視化による意識改革]	グループワークの課外作業：データ分析		
第11回	環境プロジェクト演習④【PBL】【グループワーク】 成果物製作	グループワークの課外作業：成果物製作		
第12回	環境プロジェクト演習⑤【PBL】【グループワーク】 成果物製作・貼付作業	グループワークの課外作業：成果物製作・貼付作業		
第13回	環境プロジェクト演習⑥【PBL】【グループワーク】 学内エコ活動実践（成果物による意識改革・啓発活動）	グループワークの課外作業：成果発表PP作成		
第14回	環境プロジェクト演習⑦【PBL】【グループワーク】 学内エコ活動実践の成果発表PP作成	グループワークの課外作業：成果発表PP作成		
第15回	環境プロジェクト演習⑧【PBL】【グループワーク】（まとめ）	グループワークの課外作業：ディスカッション		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%（①インタビュー項目作成20%、②フィールドワーク報告レポート20%）			
小テスト等	なし			
成果発表	30%（①環境報告書概要発表15%、②成果物15%）			
受講態度他	30%（授業の積極的参加：討議や演習への貢献度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>遅刻・早退厳禁（遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす）</p> <p>やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで理由とともに連絡すること</p> <p>交通機関の遅延の場合は、遅延証明に学籍番号、名前を書いて提出すること</p> <p>病欠で病院の証明がある場合は、学生サポート班発行の欠席届を提出した場合は考慮する</p> <p>筑女ネットを利用（通知、資料（テキスト・参考資料）置き場、課題提出、出欠票など）のため、常時アクセスすること</p>			
教科書	プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	木曜日2講目 *必ず事前にメールにて訪問日時を相談して下さい	メールアドレス		

授業科目	現代社会とメディア【講義】		開講時期	前期
担当教員	橋本 嘉代		単 位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会とメディアについて「コミュニケーション」をキーワードとし、身近なトピックを参照しながら学ぶ。</li> <li>・情報伝達、意図の理解、関係の形成・維持など、さまざまな側面からコミュニケーションを理解し、メディアを学ぶための基礎的な力を身につける。</li> <li>・メディアの影響力や機能に関する正しい知識を獲得する。</li> <li>・企業活動や文化、情報技術など、社会の組織や社会現象においてコミュニケーションが果たす役割について考える。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会を理解するうえで基礎的知識となる「コミュニケーション」について、ミクロな相互行為からマクロな社会現象に至るまでを抽象的な理論と関連づけて理解し、自分の言葉で説明することができる。</li> <li>・メディア研究の主要な理論や学説の系譜、実験や調査といった方法論を理解し、説明することができる。</li> <li>・メディアやコミュニケーションが作り上げる社会現象や人間関係のつながりについて推論することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	ガイダンス	シラバス、ガイダンスに目を通す。		
第2回	第1章 コミュニケーションの基礎 (1)	第1章を読み要点を確認する。課題に取り組む。		
第3回	第1章 コミュニケーションの基礎 (2)	第1章を読み要点を確認する。課題に取り組む。		
第4回	第1章 コミュニケーションの基礎 (3)	第1章の復習 (小テスト対策)		
第5回	第2章 コミュニケーションの様相と関係性 (1)、第1章の小テスト	第2章を読み要点を確認する。課題に取り組む。		
第6回	第2章 コミュニケーションの様相と関係性 (2)	第2章を読み要点を確認する。課題に取り組む。		
第7回	第2章 コミュニケーションの様相と関係性 (3)	第2章の復習 (小テスト対策)		
第8回	第3章 コミュニケーションの影響力 (1)、第2章の小テスト	第3章を読み要点を確認する。課題に取り組む。		
第9回	第3章 コミュニケーションの影響力 (2)	第3章を読み要点を確認する。課題に取り組む。		
第10回	第3章 コミュニケーションの影響力 (3)、レポートについて	第3章の復習 (小テスト対策)		
第11回	第4章 コミュニケーションと社会 (1)、第3章の小テスト	第4章を読み要点を確認する。課題に取り組む。		
第12回	第4章 コミュニケーションと社会 (2)	第4章を読み要点を確認する。課題に取り組む。		
第13回	第4章 コミュニケーションと社会 (3)	第4章の復習 (小テスト対策)		
第14回	全体のまとめ + レポートの書き方について + 第4章の小テスト	レポート執筆		
第15回	ゲスト講師による特別講義	教科書全体の復習、レポート執筆、特別講義の質問を考える		
成績評価	割 合 ( % ) 、 種 類 ・ 評 価 基 準 等			
定期試験	0% なし			
レポート	30%			
小テスト等	50% (小テスト、授業外課題)			
成果発表	0%			
受講態度他	20% (リアクションペーパーやグループワークなどの取り組み)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容に沿った講義が中心ですが、受講者が主体的・能動的に学ぶためのインタラクティブな学習方法(書く、話す、調べる、発表する等)や授業前課題など取り入れます。</li> <li>・特別講義の日程は変更になる場合がありますが、その際は早めに告知します。</li> </ul>			
教科書	辻大介・是永論・関谷直也編『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣 *「筑女ネット」のオンライン教材も併用します。			
指定図書	なし			
参考図書	NHK放送文化研究所編『現代社会とメディア・家族・世代』新曜社			
オフィスアワー	火曜12:30-14:30 水曜11:00-12:45	メールアドレス		

授業科目	現代社会と地域デザイン【講義】	開講時期	後期
担当教員	上村 真仁	単位	2
授業の目的と概要	<p>環境問題の深刻化や価値観の多様化、人口減少社会の到来など現代社会の都市・地域を取り巻く環境は著しく変化しています。こうした現代社会の特徴を適切に把握し、地域創生を実現するためには、生活環境（空間）のデザインに加えて、社会関係（コミュニティ）のデザインがますます重要な意義を持つようになっていきます。</p> <p>本講義では、現代社会の諸特性についての基礎的な知識や将来動向への理解を深め、地方創生に求められる基本的な考え方や地域で暮らす人々を主体とした地域活性化の理念や実践事例を学ぶことで、地域デザインの必要性に対する理解を深めることを目的とする。また、地域資源論、地域プロジェクト演習やプロジェクトマネジメントなどより専門的な知識や技能を習得する意義への理解を深める。</p>		
到達目標	<p>地方創生に関わる事例を通じて、地域を取り巻く課題、基礎的な用語や手法に関する知識を習得する。自ら地域事例を調べ、地域課題や解決策の特定、そのプロセスやポイントを抽出することができるようになる。全国の地域活性化事例において活用されている地域資源への関心を高め、その保全・利活用の意義を理解する。利害関係者の合意形成を構築する必要性や専門的な知識や技能を習得する意義を理解する。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は民間シンクタンクにおいて官公庁の環境政策や地域振興施策の立案に関わり、また環境NGOや地域NPOでの持続可能な地域づくりの実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。</p> <p>「地域資源論」「地域プロジェクト演習」「プロジェクトマネジメント」とあわせて受講するとより理解が深まります。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	ガイダンス 地域デザインとは何か?、グループ分けと他己紹介	自己紹介を考えて来て下さい。	
第2回	現代社会の諸特性 その1 地球環境問題の深刻化 第1回小テスト	地球環境問題と自分の暮らしの関わりについて調べてくる。	
第3回	現代社会の諸特性 その2 グローバル化と人口減少社会 第1回現社バトル 2名	グローバル化、人口減少が地域の暮らしに与える影響について調べてくる。	
第4回	地域デザイン手法 その1 地方創生のまちづくり 第2回小テスト	人口減少に対応したまちづくり事例について調べてきてください。	
第5回	地域デザイン手法 その2 住まいとまちづくり（空き家問題）	空き家や古民家の活用について調べてきてください。	
第6回	地域デザイン手法 その3 地球環境時代のまちづくり 第2回現社バトル 2名	環境と共生した住まいやまちづくり事例を調べてきてください。	
第7回	地域デザイン手法 その4 観光まちづくり 第3回小テスト	インバウンド対策事例を調べてきて下さい。	
第8回	フィールドワーク事前学習 太宰府天満宮門前町とまち歩き 第3回現社バトル 2名	太宰府の魅力や資源について調べてきてください。	
第9回	フィールドワーク 太宰府でのまち歩き実習（9回、10回、11回をあわせて、11/24に開講します）	まち歩き時のフィールドノートをもとめてくること	
第10回	フィールドワーク 太宰府でのまち歩き実習（9回、10回、11回をあわせて、11/24に開講します）	フィールドノートをもとに、太宰府の魅力とその活用法を考えてきてください	
第11回	フィールドワーク 太宰府でのまち歩き実習（9回、10回、11回をあわせて、11/24に開講します）	発表資料作成の方針について考えてきて下さい。	
第12回	グループ討議 太宰府の魅力とその活用に向けたデザイン（発表資料作成）	グループ発表資料の作成（模造紙）	
第13回	グループ発表 その1（グループ1～5） 第4回現社バトル 2名	発表資料を完成させ発表の練習をしてきてください。	
第14回	グループ発表 その2（グループ6～10） 第5回現社バトル 2名	発表資料を完成させ発表の練習をしてきてください。	
第15回	まとめと振り返り 第4回小テスト	復習をして下さい。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	なし		
小テスト等	40%（基礎的な用語や手法、事例について的小テストを授業中に4回程度実施する）		
成果発表	50% フィールドワークを通して発見した太宰府の魅力的な資源について、その理由と保全・活用の方策をグループで協議し、プレゼン資料を作成し発表する（プレゼン資料20%、発表20%）。		
受講態度他	10% 11月24日（日）フィールドワークへの参加の積極性により評価		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>本科目では、受講生の中の希望者に、地域デザインに関連したキーワードについて調べ、プレゼンテーションを実施してもらいます（「現社バトル」と呼ぶ）。現社バトル発表者にはその出来栄により加点を行う。また、本講義ではフィールドワークに基づき、グループワークおよび発表を行います。11月24日のフィールドワークには出席するようにしてください。グループのメンバーに迷惑をかけないよう、積極的に参加するようにしてください。グループワーク実施、発表は評価の対象となっています。</p>		
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。		
指定図書	<p>1. 調査されるという迷惑「フィールドに出る前に読んでおく本」宮本常一、安溪遊地 みずのわ出版</p> <p>2. コミュニティデザイン 人がつながるしくみをつくる 山崎亮 学芸出版社</p> <p>3. ブラジルの環境都市を創った日本人—中村ひろし物語</p>		
参考図書	<p>服部圭郎 未来社</p> <p>4. 若者のためのまちづくり 服部 圭郎 岩波ジュニア新書</p> <p>課題図書 5. 社会学をはじめよう 吉本 折郎 岩波ジュニア新書</p>		
オフィスアワー	月曜日2限、3限、4限、水曜日4限	メールアドレス	

授業科目	広告論【講義】	開講時期	前期
担当教員	須藤 遙子	単位	2
授業の目的と概要	テレビCMや企業サイト、雑誌広告や新聞広告の分析を通じて、メディアごとに異なる広告の特徴を学ぶ。グループでの討論をしながら、チームワークにおけるコミュニケーションスキルを高める。「消費社会」に対する批判的な視点を養う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアの特性による情報の違いを理解する。</li> <li>・チームワークを円滑に進めるための的確な役割分担や積極的な発言ができる。</li> <li>・プレゼンテーション能力を身につける。</li> <li>・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は放送局で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。	気になるテレビCMや企業サイトをチェックする。	
第2回	テレビCM (1) 概説、分析方法。	気になるテレビCMをチェックする。	
第3回	テレビCM (2) グループ分け、テーマ決め、グループ討論。	グループで決めたテレビCMを分析し、討論用にメモする。発表準備。	
第4回	テレビCM (3) グループ発表、コメント。	テレビCM分析復習。小レポート。	
第5回	インターネット企業サイト (1) 概説、分析方法。グループ分け、テーマ決め、グループ討論。	グループで決めた企業サイトを分析。発表準備。	
第6回	インターネット企業サイト (2) グループ発表、コメント。	インターネットCM分析復習。小レポート。	
第7回	雑誌広告 (1) 概説、分析方法。グループ分け、テーマ決め、グループ討論。	グループで決めた雑誌広告を分析。発表準備。	
第8回	雑誌広告 (2) グループ発表、コメント。	雑誌広告分析復習。小レポート。	
第9回	インターネット企業サイト (4)	企業サイト分析復習。レポート。	
第10回	新聞広告 (1) 概説、分析方法。グループ分け、テーマ決め、グループ討論。	新聞広告をチェックする。発表準備。	
第11回	新聞広告 (2) グループ発表、コメント。	新聞広告分析復習。小レポート。	
第12回	SNS広告 (1) 概説、分析方法。グループ分け、テーマ決め、グループ討論。	SNS広告をチェックする。発表準備。	
第13回	SNS広告 (2) グループ発表、コメント。	SNS広告分析復習。小レポート。	
第14回	現代の広告について概説、全体討論。	これまでの授業をふまえて広告の役割について考察する。	
第15回	まとめ。	復習。	
成績評価	割合 ( % )、種類・評価基準など		
定期試験	0 %		
レポート	50 %		
小テスト等	0 %		
成果発表	30 % (課題提出)		
受講態度他	20 % (理解度チェックの内容含む)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業は遠隔で行います。出席は、各回の「理解度チェック」への回答で確認します。質問は全員が共有できるように、筑女ネット「質問箱」にお願いします。		
教科書	なし。適宜指定します。		
指定図書	なし。		
参考図書	その都度、指定します。		
オフィスアワー	火曜 10 - 12 時。	メールアドレス	

授業科目	国際ビジネス【講義】		開講時期	後期
担当教員	篠崎 真美		単位	2
授業の目的と概要	<p>授業の目的は、グローバル社会における日本企業の国際経営および多国籍企業のグローバル・オペレーションなど具体的な事例を取り上げ、国際ビジネスの基礎知識を修得するとともに、異なる言語、異なる文化、異なる経済体制、異なる政治システム、異なる法体系からなる外部環境がどのように国際的な企業経営に影響を与えるのか、どのような問題にどのように対応しているのか、経営学知識に基づいて論述できることである。</p> <p>ケースメソッド教育により、経営学基本知識の修得と課題の解決策の提案能力を身につける。グローバルビジネス、特に中国ビジネスでの実例を紹介しながら、ビジネス実務の</p>			
到達目標	<p>①国際経営、グローバルビジネスにおける経営学基礎知識を獲得する</p> <p>②国際経営、グローバルビジネスを展開する上での課題解決策の提案能力を形成する</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>現 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は海外におけるグローバルビジネス実務経験のある教員が担当しており、『授業の目的と概要』記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス 国際経営、グローバルビジネスの基礎知識	国際経営とは、グローバル・ビジネスとはなにか調べてきてください		
第2回	国際経営における経済体制・政治システム	予習：課題をしてきてください		
第3回	国際経営における異文化マネジメントとコミュニケーション	予習：課題をしてきてください		
第4回	国際経営の法務とグローバルビジネスの交渉術	予習：課題をしてきてください		
第5回	国際経営 ケース①経営学基礎知識	予習：課題をしてきてください		
第6回	国際経営 ケース①読解	予習：課題をしてきてください		
第7回	国際経営 ケース①課題のディスカッション	予習：課題ケースを読んで理解し、質問に回答してきてください。		
第8回	グローバル・ブランド戦略	予習：課題をしてきてください		
第9回	グローバル・ビジネスと国家	予習：課題をしてきてください		
第10回	グローバル・ビジネス ケース②経営学基礎知識	予習：課題をしてきてください		
第11回	グローバル・ビジネス ケース②読解	予習：課題をしてきてください		
第12回	外部講師による ケース②課題とディスカッション	予習：課題をしてきてください		
第13回	グローバルビジネス ケース③経営学基礎知識	予習：課題をしてきてください		
第14回	グローバルビジネス ケース③読解	予習：課題をしてきてください		
第15回	グローバルビジネス ケース③課題とディスカッション	予習：課題をしてきてください		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ ケース20％ x 3回の事前課題提出			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40％ ①コメント（出席カード裏）15％、②授業参加貢献度（発言回数と内容を毎回記録をとり加点します） 25％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>事前課題を遅刻・早退厳禁（遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす）やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで理由とともに連絡すること</p> <p>交通機関の遅延の場合は、遅延証明に学籍番号、名前を書いて提出すること</p> <p>病欠で病院の証明がある場合は、学生サポート班発行の欠席届を提出した場合は考慮する</p>			
教科書	ケースメソッド教材（第一回講義で説明する）			
指定図書	随時指定します			
参考図書	随時紹介し□ます			
オフィスアワー	木曜日2講目 *事前にメールにて訪問日時を相談してください	メールアドレス		

授業科目	社会活動実践【演習】		開講時期	通年
担当教員	栗山(俊)・吉野(嘉)		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：社会活動に参加することで、社会の現状や仕組みについての理解を深めるとともに、責任感やコミュニケーション能力など、現代社会に必要とされる資質や能力を身に付ける。</p> <p>概要：インターンシップのほか、ボランティア活動、海外研修などを社会活動としてとらえ、一定の時間これらを体験することが中心となる。また、事前、事後の学習を通して、現代社会における自らの社会活動の位相について、より深く、広く認識する。</p>			
到達目標	<p>社会活動に参加する際の基本的なマナーを習得する</p> <p>それぞれの社会活動に参加する意義・目的について明確化し、それによって具体的に実践できる</p> <p>同じ活動に取り組む仲間たちと協働して社会活動に取り組むことができる</p> <p>行った社会活動の内容をまとめ、他者に伝えることができる</p> <p>自らの社会活動内容について振り返り、次回に活かすことができる</p> <p>上述のような学びを通して、社会活動に積極的に参加できる</p>			
この授業が目的としてDPや関連する科目など	<p>(3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身につけている。</p> <p>この授業で行われるディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークは、基礎専門ゼミナール、専門ゼミナール、卒業ゼミナールなどで行われるそれらの基礎となるものです。</p> <p>この科目は、実践キャリア実務士、プレゼンテーション実務士、環境マネージメント実務士に関連する科目です。</p> <p>担当教員の中には仏教福祉活動・高校教員の実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	全体オリエンテーション この講義の進め方	社会活動とは何か学修する		
第2回	インターンシップ・ボランティアについて (1)	インターンシップ・ボランティアについて学修する		
第3回	インターンシップ・ボランティアについて (2)	インターンシップ・ボランティアについて学修する		
第4回	社会活動の希望調査&ディスカッション	希望した社会活動について、その内容について学修する		
第5回	各社会活動に応じたグループワーク (1)	各社会活動に応じて与えられる課題に基づいて学修する		
第6回	各社会活動に応じたグループワーク (2)	各社会活動に応じて与えられる課題に基づいて学修する		
第7回	各社会活動に応じたグループワーク (3)	各社会活動に応じて与えられる課題に基づいて学修する		
第8回	社会活動実践	実際の社会活動を通して明らかになった課題について学修する		
第9回	社会活動実践	実際の社会活動を通して明らかになった課題について学修する		
第10回	社会活動実践	実際の社会活動を通して明らかになった課題について学修する		
第11回	社会活動実践プレゼンテーション準備としてのグループワーク	プレゼンテーションの分担部分について学修する		
第12回	社会活動実践プレゼンテーション資料完成	社会活動実践プレゼンテーション資料を完成させる		
第13回	社会活動実践プレゼンテーション (1)	自らのプレゼンテーションを振り返る ・他者のプレゼンテーションを評価する		
第14回	社会活動実践プレゼンテーション (2)	自らのプレゼンテーションを振り返る ・他者のプレゼンテーションを評価する		
第15回	社会活動実践プレゼンテーション (3)	自らのプレゼンテーションを振り返る ・他者のプレゼンテーションを評価する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない			
レポート	レポート試験 30%			
小テスト等	提出物 20%			
成果発表	社会実践活動プレゼンテーション 30%			
受講態度他	講義に取り組む姿勢 20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*インターンシップ・ボランティアなどに取り組んでおられる諸団体にご協力頂きながら実際の社会活動実践を行います。真摯に向き合ってください。 *後期通年で15回の講義を行うところ、また、社会活動実践の種類によってクラス分けを行うところがありますが、他とは異なるこの講義の特徴です。 *それぞれの社会活動に関する情報等があれば、筑女ネットに掲載します。また、インターンシップ先、ボランティア先等により受講スケジュールが変わります。筑女ネットでチェックしてください。個別の質問等も筑女ネットでも受け付けます。筑女ネットの活用を心掛けてください。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します			
オフィスアワー	各教員・前期・後期によって異なります。担当教員の他の前期・後期のシラバスを参照してください	メールアドレス		

授業科目	出版論【講義】	開講時期	前期
担当教員	橋本 嘉代	単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雑誌を中心とする出版メディアの特性と社会的役割を理解する。</li> <li>・出版業の現状、課題、今後の可能性について、認識を深める。</li> <li>・制作プロセスや出版に携わる人々の体験談を参考にし、出版への理解を深める。</li> <li>・さまざまな角度から雑誌を分析する方法を学び、情報リテラシーを養う。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍や雑誌の主なジャンルとその特性、社会的機能を類別できる。</li> <li>・出版関連の仕事の多様性を知り、進路選択の参考にできる。</li> <li>・インターネットやソーシャルメディアの普及が「出版」「編集」「読書」に与えた影響を述べるができる。</li> <li>・著作権・肖像権について正しい知識を持ち、ネット利用などの際に著作権者の権利を守ることができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。  現 (3) -②-3 現代社会で活躍するために求められる特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション + 1冊の本ができるまで	オリエンテーションの内容を復習	
第2回	出版にかかわる仕事 ①企画・編集・制作 ②社外の専門職	出版物を読んだり、出版業界を舞台とするメディア作品を視聴	
第3回	出版にかかわる仕事 ③販売・宣伝・広告営業 ④取次・書店	書店のPOPや陳列の観察、イベントなどの取り組みを調べる(課題1)	
第4回	出版の歴史と法制度(著作権、肖像権、再販制など)	次週の小テストに向けて復習	
第5回	出版メディアの特性と機能 ①書籍(文芸、ノンフィクション、実用書)+小テスト	ベストセラーや文学賞受賞作を読む	
第6回	出版メディアの特性と機能 ②雑誌(ファッション誌、ライフスタイル誌)	ターゲットが異なる複数の雑誌に目を通し、分析したい雑誌を探す	
第7回	雑誌分析 ①女子大生向け雑誌の「就活ファッション」の経年変化	1980年代以降の女子大学生の就職に関する歴史を調べる	
第8回	雑誌分析 ②パパ誌の分析	「イクメン」現象を考察するための資料を探し、読む	
第9回	雑誌分析 ③ママ誌の分析	7~10回の分析をふまえたミニレポート(課題2)を執筆	
第10回	雑誌分析 ④競合誌比較(受講者が雑誌を持参)	対象誌の中から分析したい雑誌を選び、読む。発行部数や公式サイトを見る	
第11回	出版産業の概要(出版社の特徴と業績、業界規模、ビジネスモデル)	授業で示された統計データや各社のHPを参照。小テスト対策の復習	
第12回	デジタル時代の出版(産業構造や読書形態の変化)	電子書籍や書評サイトなど、関連する事象にふれる。小テスト対策の復習	
第13回	出版物のデザイン(フォント、レイアウト) +小テスト	装丁や帯のデザインやコピー、フォントの種類を調べる	
第14回	ゲスト講師による特別講義	ゲストへの質問を考える。レポートを書く(課題3)	
第15回	出版という行為の社会的な位置づけ	レポート(課題3)の執筆	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% (課題3回分)		
小テスト等	20%		
成果発表	0%		
受講態度他	20% (授業での積極的な態度を考慮します)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は指定しませんが、分析用の書籍や雑誌を入手し、持参してもらいます。</li> <li>・受講者同士で雑誌を回し読みしたり意見交換するといったグループワークを行います。</li> <li>・ゲスト講師の回は、日程や場所が変更になる場合があります。</li> <li>・レポートの詳細は授業で説明します。</li> </ul>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	川井良介編『出版メディア入門 第2版』日本評論社、橋本嘉代『なぜいま家族のストーリーが求められるのか』書肆侃侃房		
オフィスアワー	火曜12:30-14:30 水曜11:00-12:45	メールアドレス	

授業科目	地域デザイン演習【演習】		開講時期	前期
担当教員	上村 真仁		単位	2
授業の目的と概要	この科目は原則的に遠隔授業で実施します。地域デザイン演習は、地域資源を活用した内発的な地域づくりへの理解を深めるとともに、事例動画の視聴により地域デザインの具体的な展開に関する知識を獲得し、具体的に設定された条件をもとに演習形式で地域デザインプロセスを模擬体験し、習得することを目的としています。本年度の演習では、現代社会の大きな問題となっている空き家問題に着目し、その対策メニューに関する知識の獲得と太宰府市内の空き家を対象として学生の参加による空き家の利活用方策の企画提案を行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域デザインの手法、手順などについて説明できる。</li> <li>2. 全国の地域づくり事例から多様な手法に関する知識を身につけ、課題に応じてその活用方策が提案できる。</li> <li>3. 各種条件を提示された中で、地域デザインを進めるための計画と魅力的な地域づくり案を立案することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。  現 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は民間シンクタンクにおいて官公庁の環境政策や地域振興施策の立案に関わり、また環境NGOや地域NPOでの持続可能な地域づくりの実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 地域デザイン演習の進め方	地域デザイン演習でやりたいこと、関心のあるテーマを考えてきてください。		
第2回	空き家等問題の現状とその発生の要因	事前配布資料を読んで、ネット上の課題に答えてください。		
第3回	空き家等の活用事例1 伝統的古民家の活用（農山村空き家）	事前配布資料を読んで、ネット上の課題に答えてください。		
第4回	空き家等の活用事例2 伝統的古民家の活用（町屋等の地方都市の空き家）	事前配布資料を読んで、ネット上の課題に答えてください。		
第5回	空き家等の活用事例3 昭和時代の空き家の活用（既成市街地の空き家）	事前配布資料を読んで、ネット上の課題に答えてください。		
第6回	空き家等の活用事例4 現代の社会問題と空き家（過疎地域の廃校）	事前配布資料を読んで、ネット上の課題に答えてください。		
第7回	演習課題の説明 太宰府の空き家 周辺環境と建築物の条件など	事前配布資料を読んで、ネット上の課題に答えてください。		
第8回	太宰府の社会的課題1 太宰府市の子育て環境の課題	太宰府市の子育て環境の課題について調べてきてください。		
第9回	太宰府の社会的課題2 太宰府市の高齢者の課題	太宰府市の高齢者の課題について調べてきてください。		
第10回	太宰府の社会的課題3 太宰府市の産業振興上の課題	太宰府の商業、観光などの課題について調べてきてください。		
第11回	活用可能な資源1 筑紫女学園大学の取り組み	大学生が地域課題解決に取り組んでいるものを調べてきてください。		
第12回	活用可能な資源2 学生のホームシェアに関するニーズ調査結果	大学生の異世代ホームシェアの事例について調べてきてください。		
第13回	空き家の利活用方策検討のための計画づくり 協働による事業実施	地域デザインの計画プロセスに関する資料を読み、案を作成してください		
第14回	空き家利活用方策の検討 利活用（案）の案出	具体的な活用内容と実施上の課題を計画案としてまとめてきてください。		
第15回	発表会	空き家活用の具体的な利活用イメージに関するプレゼンテーション資料作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	40% （毎回の授業で課される事前課題 20%、事後課題による評価 20%）			
成果発表	40% （検討計画 20%、利活用方策 20%）			
受講態度他	20% 各授業の振り返り、最終発表により評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講義は、原則的に遠隔授業で実施します。受講生の皆さんはインターネット環境のあるPC、タブレット、スマートフォンを使って、受講することが可能です。筑女ネットにアップロードされているレジュメ、講義資料（パワーポイントなど）、ワークシートなどのファイルをもとに自宅で学修を進めてください。演習課題についても在宅でできる課題を課します。演習については毎回チャットやインターネット会議システムなどを利用してチェックとフィードバックを受けてください。質疑やディスカッションを行うことができます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します。			
オフィスアワー	月曜日 4限	メールアドレス		

授業科目	日本語コミュニケーションゼミナール【演習】		開講時期	後期
担当教員	吉野(嘉)・橋本(嘉)・岡本(文)・橋本(嘉)・須藤(遙)・坂本(隆)		単位	2
授業の目的と概要	<p>「基礎ゼミナール」に引き続き、これから大学での学修を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを学んでもらうための科目です。その中には、大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけることはもちろん、周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけることや、自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと、などが含まれています。</p> <p>また、言葉のエキスパートとして活躍しているアナウンサー、記者経験者による特別講義を受講し、実社会における「言葉の力」について情報を得て考えることで、コミュニケーション・スキルの向上を目指します。</p>			
到達目標	<p>1. 問題解決に必要な情報を集め、分析、整理することができる。</p> <p>2. 受講生同士の対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる。</p> <p>3. 自分の意見をプレゼンテーションやレポートを通して表現することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には放送関係企業での実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	テーマを考える。ディベートの予習等		
第2回	論理的思考(ディベートの作法)	教科書 8章 (p.72-p79)、9章 (p.80-p87)、レジュメ作成		
第3回	テーマ設定(現代社会の諸問題)	各自レポートテーマを決める。口頭発表の準備		
第4回	口頭発表 ① 前半	口頭発表の準備		
第5回	口頭発表 ② 後半	教科書4章 (p36-p45)、5章 (p.46-p51) レポート作成		
第6回	情報収集・整理	レポートに関する資料収集と整理		
第7回	プレゼンテーション① 構成・PP作成	発表の準備 教科書 (p110-p113) PP作成		
第8回	プレゼンテーション② 発表・相互評価	レポートの執筆と修正		
第9回	特別授業①(11月14日土曜日の3限)	テーマ「聞く力」	アナウンサーによる講義	
第10回	特別授業②(11月14日土曜日の4限)	テーマ「伝える力」	アナウンサーによる講義	
第11回	レポートの実践① 執筆準備	レポートの執筆		
第12回	特別授業③(11月28日土曜日の3限)	テーマ「読む力」	読売新聞「新聞のちから委員会」講師による講義	
第13回	特別授業④(11月28日土曜日の4限)	テーマ「書く力」	読売新聞「新聞のちから委員会」講師による講義	
第14回	レポートの実践② 執筆	レポートの執筆と修正		
第15回	レポートの実践③ 執筆&提出	まとめ レポートの執筆と修正 クラージュによる振り返り		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	40% レポート			
小テスト等	0% なし			
成果発表	30% 口頭発表(10%)、PPによるプレゼンテーション(20%)			
受講態度他	30% 授業での小課題(15%)、受講態度など(15%)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必修科目なので全員受講し、遅刻・欠席をしないよう心がけてください。アナウンサーや記者経験者を講師とする特別講義は、すべてのクラスで11月14日(土)と11月28日(土)に実施します。これは、水曜5限を想定したシラバスですが、クラスによって授業の進め方が異なります。担当教員が授業スケジュールを説明するので、注意してください。			
教科書	世界思想社編集部 『大学生 学びのハンドブック』(4訂版) 世界思想社			
指定図書	なし			
参考図書	各担当者から指示がある場合があります。			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス	教員によって異なります。初回の授業でお知らせします。	

授業科目	仏教とビジネス【講義】		開講時期	後期
担当教員	篠崎 真美		単位	2
授業の目的と概要	<p>授業目的は、世界宗教とビジネスの関連性を理解した上で、近世から近現代に至るまで仏教の信仰心がビジネスに与えてきた影響をケーススタディによって考察することである。</p> <p>日本では、近世以降全国的に活躍した近江商人は神仏を篤く信仰し「三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）」の経営理念を持った。近代では生命保険会社は仏教系を基盤に発展した歴史をもち、現代においても松下幸之助氏（パナソニック創業者）や稲盛和夫氏（京セラ創業者）、柳井正氏（ファーストリテイリング創業者）など仏教の信仰心を企業活動に活かす経営者は枚挙に遑がない。これら日本の有数の起業家のケーススタディから仏教の信仰心とビジネスの関連性を分析するとともに、ゲストスピーカーの話から仏教を礎に自らのキャリア形成を構想する。</p>			
到達目標	<p>①宗教全般とビジネスの関連性を説明することができる</p> <p>②仏教の信仰心がビジネスに与えた影響を考察しまとめることができる</p> <p>③日本の起業家が仏教・真宗の信仰心をビジネスに活かしているケーススタディを学ぶことで、企業倫理を学ぶとともに自らのキャリア・生き方を構想し述べることができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目はビジネス・仏教実務経験のある教員が担当しており、実務経験と経営学・仏教学研究により『授業の目的と概要』記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス・仏教・真宗の基礎クイズ	予習：「仏教学Ⅰ・Ⅱ」と「親鸞人と思想Ⅰ・Ⅱ」の振り返り		
第2回	世界宗教とビジネス①（キリスト教、ユダヤ教、イスラム教）	予習：事前に指定資料を読んでくること		
第3回	世界宗教とビジネス②（重商主義から自由主義）	予習：重商主義とはなにか調べてきてください		
第4回	世界宗教とビジネス③（プロテスタントと資本主義）	予習：資本主義とはなにか調べてきてください		
第5回	世界と日本における仏教と社会システム（上座部仏教と大乘仏教）	課題レポート①世界宗教とビジネス		
第6回	日本仏教のはじまり	課題レポート①世界宗教とビジネス		
第7回	仏教・真宗の思想と近江商人	課題レポート①世界宗教とビジネス		
第8回	真宗のみ教えとビジネス	課題レポート②仏教とビジネス		
第9回	真宗の信仰心とビジネス：ケーススタディ①（パナソニック）	課題レポート②仏教とビジネス		
第10回	真宗の信仰心とビジネス：ケーススタディ②（伊藤忠商事）	課題レポート②仏教とビジネス		
第11回	ゲストスピーカー：経営に活かす信仰心 *ゲストの予定によって日程変更はありえます	課題レポート③ゲストスピーカー		
第12回	真宗の信仰心とビジネス：ケーススタディ③（生命保険会社）	課題レポート③ゲストスピーカー		
第13回	真宗の信仰心とビジネス：ケーススタディ④（京セラ）	課題レポート③ゲストスピーカー		
第14回	人間中心の経済学	課題レポート③ゲストスピーカー		
第15回	総括	課題レポート③ゲストスピーカー		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70%（レポート①20%、②20%、③30%）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% ①講義のコメント・質問15%、②授業貢献度15%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>遅刻・早退厳禁（遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす）</p> <p>やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで理由とともに連絡すること</p> <p>交通機関の遅延の場合は、遅延証明に学籍番号、名前を書いて提出すること</p> <p>病欠で病院の証明がある場合は、学生サポート班発行の欠席届を提出した場合は考慮する</p> <p>筑女ネットを利用（通知、資料（テキスト・参考資料）置き場、課題提出、出欠票など）のため、常時アクセスすること</p>			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	木曜日2講目 *事前にメールにて訪問日時を相談してください	メールアドレス		

授業科目	文化政策論【講義】		開講時期	後期
担当教員	須藤 遙子		単位	2
授業の目的と概要	現代における「文化」とは何かを、政治や経済との結びつきで考える。村おこしのような小さなものから、オリンピックのような国家規模のものまで、様々な文化政策について学ぶ。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメやPPTを使つての発表・プレゼンテーションができる。</li> <li>オリンピックや万博等を例に、国家政策における「文化」の位置付けを把握する。</li> <li>地方自治体における文化行政について理解を深める。特にゆるキャラを使った観光行政に焦点を当てる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は放送局で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。文化政策とは。	文化政策にはどのようなものがあるか考える。		
第2回	文化行政概説。分析方法説明。	分析する九州内の市町村を調べる。		
第3回	行政主催の文化活動。発表。	分析する九州内の市町村を調べる。		
第4回	市民主催の文化活動。発表。	分析する九州内の市町村を調べる。		
第5回	観光政策とゆるキャラ① 概説と分析方法説明。	分析する九州内の観光地を調べ、PPT・レジュメを作る。		
第6回	観光政策とゆるキャラ② レジュメを配布しての発表。	復習と引き続きPPT・レジュメ作り。		
第7回	観光政策とゆるキャラ③ 引き続きレジュメを配布しての発表。	復習。		
第8回	「聖地巡礼」と文化行政① 概説と分析方法説明。	分析する「聖地」について調べ、PPT・レジュメを作る。		
第9回	「聖地巡礼」と文化行政② 発表。	分析する「聖地」について調べ、PPT・レジュメを作る。		
第10回	「聖地巡礼」と文化行政③ 引き続き発表。	万博について調べる。		
第11回	万博の歴史と役割。	オリンピックについて調べる。		
第12回	【特別授業】文化政策としての労働政策：進路支援課就活イベント参加	就活準備を進めると同時に「リクルート」と国の労働政策との関連を考える。		
第13回	東京オリンピック1964。	2020年の東京オリンピックについて調べる。		
第14回	東京オリンピック2020。	復習。		
第15回	まとめ	復習。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	0％			
成果発表	40％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>受講者の人数を見て、個人発表かグループワークかを決定します。</p> <p>授業内の私語・スマートフォン使用厳禁。対面でのコミュニケーション能力養成のため、メールでの連絡は原則禁止とします。</p> <p>用件のある学生は授業前後やオフィスアワーに直接話しにきてください。</p> <p>授業に関連する講演会・イベントなどが学内で開催される場合は、シラバスを変更して参加する場合がありますので承のこ。</p> <p>その他、細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。</p>			
教科書	なし。適宜プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスアワー	月曜昼休み。	メールアドレス		